



年輪50

第50号



兵庫県立香寺高等学校 50回生 年次通信

令和6年2月28日

50回生の皆さん

卒業おめでとう



作 大橋真帆

北川 正志

ご卒業おめでとうございます。これからは自分の思い描く人生の目標に向かって、それぞれが歩み出します。日本はコロナウイルス感染症も収束し、社会も落ち着きをとりもどしつつあります。しかし、世界に目を向けると様々な所で戦争、紛争が頻発し収束が見えません。明日は何がおきるかわからない、まだまだ混沌とした先が見えない時代であることは確かなようです。こんな時代をどう生き抜くのか芸術を軸に考えてみたいと思います。

2020年、コロナ緊急事態宣言の中で、ドイツのメルケル首相は5月9日に行った演説で、「連邦政府は芸術支援を優先順位リストの一番上に置いている」とし、文化を重視する姿勢を強調しました。日本では様々なイベントや展覧会、ライブ等が次々と中止となり、芸術など必要ないという雰囲気が大勢を占めていました。こんな中で聞いたメルケル首相の演説には非常に驚かされました。なぜ芸術支援が優先順位リストの一番上なのか。調べてみると東西冷戦の中、当時も先が見えない混沌とした時代、ベルリンには東西を隔てる壁がありました。しかし1989年、永遠に存在するかのように見えたベルリンの壁は崩壊します。そしてそれを打ち壊したのは大砲でもミサイルでもありません。音楽と詩と美術でした。デヴィッド・ボウイの音楽（ライブ）と、ヴォルフ・ピーアマンの詩、ティエリー・ノアールの壁画等の芸術が多くの人々の心を動かし、東西冷戦の象徴だった壁を壊したのです。芸術が人々の心に新たな「目」を与え、その世界を現実にしたという思いが人々に壁を壊す行動を促したのです。メルケル首相はその体現者でした。先が見えない苦しい時こそ、芸術の灯を消してはならないことを十分すぎるほど理解した上での確信をもった発言でした。

今、日本に「目[me]」という3人組の若いアートチームがいます。2013年、宇都宮美術館の館外プロジェクトで「おじさんの顔が空に浮かぶ日」という立体作品を発表しました。これは、地域のおじさんをモデルとした高さ15m、幅10mの顔のバルーンを宙に浮かせたものです。町の上にポッカーと浮かぶおじさんの顔は衝撃です。(ぜひ調べて見て下さい)では、なぜ「目[me]」はこのような作品を制作したのでしょうか？それは、人間とは常に不確かなものと、確かなものとの狭間で生きているということを提示し、見る人々に新たな「目」を提示することを目的としているからです。目に見えているものは確かに存在し、目に見えないものは存在しないと、果たして言い切れるのでしょうか？そんな当たり前のことを、作品を通じて問いかけるのです。

芸術は、新たな「目」を私たちに与えてくれます。人間はそんな「目」をたくさんもてば、混沌とした時代でも、柔軟な考え方や新たな発想をすることができます。このことは、職業やライフスタイルに関係なく、生きている限り必要なことです。芸術に関心をもつ生き方は、混沌とした時代を乗り切るための1つの方法ではないでしょうか。



作 村山 碧彩

作 藤尾 隼大



大橋 真帆

50回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんにとって高校生活3年間はどうのようなものになりましたか？私が皆さんに出会ったのは2年前でした。「誰だこいつ」と思った人もたくさんいたでしょう。最初は不安いっぱいでしたが、今となっては50回生の副担任になれて本当によかったと心の底から思います。授業でかかわった生徒、部活でかかわった生徒、たくさんの悩み・喜びを共有してくれた生徒。濃い2年間をありがとう！私にとってすべてが宝物です。皆さんもたくさんの宝物が見つかったことでしょう。

これからの人生、大いに楽しんでください。と言いたいところですが、しんどいこともたくさん出てくることでしょう。その時の魔法のおまじない「何とかなる」「まあいっか」。努力は報われる、ただし、報われるのはすぐではない可能性もあります。人生の試練に対しても楽しめるようになれば勝ちです。いつまでも皆さんの夢を応援し、幸せを祈っています。

後藤 多栄子

50回生も卒業の時を迎えましたね。三年間は私にとっても過ぎればあっという間でした。私自身も多くの人と出会い、数々の行事を共に経験し、皆さんと共に多くのことに挑戦するなかで、充実した日々を過ごすことができました。皆さんは、香寺高校での三年間のなかで、心に強く残っていることは何ですか。合唱コンクール、寺フェス、修学旅行、体育大会、、、。はたまた、毎日の小テストや課題、ボキャコン、検定試験への挑戦、受験勉強でしょうか。独りで覚悟を決めて闘ったこともあれば、全員の和を目指して励んだこともあったと思います。皆が見せてくれるこだわりや集中力、負けない強さなどに感心させられることも多々あり、近くで応援できることはかけがいのないことでした。皆さんにとっても、どのような経験も、一つ一つが今ある自身を形作っている貴重な経験となっていることと思います。

これまで皆さんにたくさんの応援メッセージを送ってきましたが、今後、心に残りやすいのはきっとメロディーだと思い、次の詩を紹介します。

作詞：杉山政美、作曲：小林亜星で、ダ・カーポという名の夫婦デュオが歌い、槇原敬之等多くの歌手がカバーしている歌の歌詞です。

歌詞の一部とはなりますが、
野に咲く花のように 風に吹かれて
野に咲く花のように 人を爽やかにして
そんな風に 僕達も 生きてゆけたら すばらしい
時には つらい人生も
雨のちくもりで また晴れる
そんな時こそ 野の花の
けなげな心を 知るのですー



思うに、人生で大事なことは、誰も教えてはくれないものです。皆さんの個性が千差万別であるように、それぞれの試練や困難も違うからなのかもしれません。これからの長い人生のなかでは、自身が機嫌よく過ごせるよう工夫をするなかで、心地よく生きるための強さやしなやかさを味方につけ、新たな舞台で頑張ってくださいね。今後の活躍を心より祈念しています。

竹内 志帆

卒業おめでとう！本当にあっという間の3年間でした。50回生は入学当初から元気でパワー溢れる学年だったので、この3年間の私のエネルギー消費量はものすごいですよ。ほんとに。50回生が自由登校に入り、省エネの毎日を過ごさせてもらいました。ありがとうございます！でも、やっぱり50回生がいないと刺激が足りん！50回生の顔を見るとホッとします。みんなにとっても50回生が居心地の良い仲間であれば嬉しく思います。わんぱく学年でしたが、「元気」だけでなく、『挨拶ができる』『素直で優しい』『人懐っこい』『団結力がある』『行事に全力』そんな50回生が私は大好きですよ。竹内を漢字一字で表すと「怒」と思い浮かべる人が多くいるようですね…まあ否定はしませんけど！！（笑）でも、たくさん叱った分、いや、それ以上に、たくさん笑わせてもらったように思います。3年間、楽しい時間をありがとうございました。

年次でも部活でもとにかく「挨拶」にうるさい私だったと思います。4月から199人199通りの新しい生活が始まりますね。そんな50回生に、沖縄のある離島で目にした言葉を贈ります。おまけにもう1つ、心に響いた言葉を贈ります。では、豊かな人生を！

人は「あいさつ」しなくても生きていける。
でも一人では生きていけない。
多くの人と、この世界を共有し、
自分以外の人と、どのようにこの世界を生きていくかを考える。
「あいさつ」は、今よりも一つだけ良い時間を過ごすための、
誰にでもできる、人と人をつないでいくもの。

「どちらが楽か」ではなく「どちらが楽しいか」で決めること。
「どちらが正しいか」ではなく「どちらが温かいか」で決めること。
「どちらが得か」ではなく「どちらが徳か」で決めること。
「どちらが損か」ではなく「どちらが後悔しないか」で決めること。
「どちらが辛いか」ではなく「どちらが頑張れるか」で決めること。
それでも迷い、分からなくなったときは、
10年後の自分を想像して、どんな思い出話に花を咲かせるかで決めること。



水田 琴葉



山本 真緩

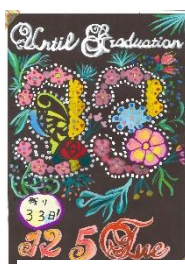


藤尾 隼大

藤尾 隼大

是枝 佑徳

卒業おめでとうございます。3年次から50回生の年次団としてみなさんと関わることになって、とても充実した1年間になりました。ありがとう。最後に僕の人生の道標としている言葉をみなさんに送ります。「愚公山を移す」。何かを成すのは選ばれた人間ではありません、最後まであきらめずに挑戦を続けた人間です。自分の信じる道を真っ直ぐ歩き続けてください。



岡田 茉凜



瀬澤 凜



藤原 颯



柴田 愛菜

大川 なな子

ご卒業おめでとうございます。私は皆さんと同じく3年前に、この香寺高校に来ました。どんな学校だろう、どんな子たちだろうと、皆さんと同じく期待半分、緊張半分でした。3年間を過ごしてきて50回生に思うことは、「いい子たちだな」ということです。この「いい子」というのは、勉強ができるとか、スポーツができるとか、そんなことではありません。挨拶をすると元気な挨拶が返ってくる。困っているときに助けてくれる。当たり前前のことが当たり前前にできる。「心根のいい子」ということです。国語という教科の特性上、皆さんの作文や感想を多く見てきました。担任としてではなくとも、授業を通して皆さんの考え方、気持ちに触れることができました。皆さんの人生の中の貴重な3年間に携われて幸せでした。本当にありがとうございました。

夢に向かって！！



高橋 穂乃馨



中島 夏羽



坂井 志織



岡本 匠

井奥 望実

卒業おめでとうございます。入学式から早3年、後から考えるとあっという間だったなあと感じています。私にとっては初めて担任を持った学年で、至らないことも沢山あったと思います。しかし、50回生の皆さんは様々な場面で自発的に助けてくれることが多く、本当に助かりました。感謝しています！

「生きるというのは人に何かをもらうこと。生きていくというのはそれをかえしていくこと」

～金八先生～

今後はそれぞれの進路で活躍してくれることを楽しみにしています。



ファム ミン ギー



寺本 桃華



中安 倅一朗



中川 麗奈

岡本 欣丈

卒業おめでとうございます。50回生のみんなとはたった1年の付き合いでしたが、今思えば楽しい思い出がたくさんできました。今年度の最初の年次通信で次の言葉を載せました。

「時間を積分したものが人生であり、時間を微分したものが今である。」

理系の人たちは4月には意味が分からなかったと思いますが、この1年間勉学に励んだことでこの解が分かったでしょう。



岸本 陽菜

$$\text{今} = \frac{d}{dt} \text{時間}$$

$$\text{人生} = \int_{人}^{人} \text{時間} dt$$



楠田 華那

3年間を漢字1文字で表したら 50回生

一部を抜粋しました

1位	「楽」	31票	久後龍聖、伊賀陽人、高坂美咲、宮田はな、松本美桜など
2位	「笑」	12票	高瀬みほこ、難波璃奈、尾崎七星、寺本桃華、大森藍実など
3位	「成」	9票	西脇未優、岡田真凜、横田くこ、矢島莉子など
4位	「友」	8票	中井信太郎、松岡祥吾、森本亜唯、須鎗柚葉など
5位	「変」	5票	坂井志織、丁佳欣、武田彩花など
	「勉」		岡本匠、大光俊輔など
	「学」		井上こころ、田中樹季など
	「努」		山内瑠杏、山崎拓実など
	「幸」		飯田陽太、三好拓翔など
	「進」		赤木宏彰、大川雛など
	「責」		福永かりん、堀桃萌
	「実」		青田果奈
	「貴」		グエン ド チャン トラン
	「喜」		上田修護
	「感」		加藤太一
	「遊」		島袋帆南
	「糸」		西畑里保
	「渋」		河野海生
	「満」		安田来人

松平 知明

50回生のみなさん、卒業おめでとうございます。

香寺高校は、また1年分の年輪が増えました。

中学3年生の大切な時期はコロナ禍のせいで不完全燃焼だったかもしれません。しかし、50回生のみなさんは、そのコロナ禍を克服した高校生活を送りました。

寺フェス、体育大会、修学旅行などの行事を立派にやり遂げることができました。それぞれの場面でみなさんの発した言葉には、場面転換できるパワーがありました。

今という瞬間と瞬間の連続体が、私たちが時間と呼ぶ存在です。「終わり」こそ、新たなる「始まり」。香寺高校という同じ場所にいると、同じ景色しか見えません。勇気を出して、そこから離れる時が来たのです。

そういえば、成人年齢が18歳になっています。常識とは成人までに蓄えられた偏見の集大成だそうです。世の中の常識を疑う良い機会です。

「日本の18歳は自立できる状況か？」と問われています。自立とは、「他からの支配や助力を受けずに、存在すること」だそうです。「人に助けてもらうこと」「自分でできること」その境目を自分で見つけることができると自立できます。

これからの人生も、たった一度の決断で作られているのではなく、無数の決断の積み重ねから生まれた結果になります。何かを決めるときは「昨日の自分」ではなく、「明日の自分」に相談しましょう。

時には、いったん後ろ向きになって、初めて前向きになれることもあるでしょう。でも自分の心に扉があるとすれば、その取っ手は内側にしかついていません。自分で開けないと外には出られないのです。

決して生き急ぐ必要はありません。一周遅れで先頭を走るぐらいがちょうどいいのかもしれません。周りがよく見えます。ゆっくり走るとゆとりが生まれます。人生はゆとりをもって品性を保ちながら走り続けることが大切です。そもそもが、人生に順位はありません。誰が先頭を走っているかなんて傍目にはまったくわからないものです。

昨日と今日はよく似ているけれど同じではない

そして明日はいつでも新しい

明日はあなたの味方です



香寺高校 4月



坂元 音々



荒木すみれ



安部 友理



香寺高校 1月

3年間のありがとう

